

ホタテガイ養殖管理情報

水温が26℃を超える日は、稚貝採取をやめましょう

1 海況

7月30日時点の陸奥湾の表層（1m層）の水温は、図1、2のとおりで、気温の影響により全湾的に表層の水温が上昇しており、1m層で水温が26℃を超えるところがでてきました。

2 今後の養殖管理の注意点

稚貝は、水温が26℃を超えるとへい死する危険性が高まります。

稚貝採取をまだ行っている地区では、表層の海水温を直接測るか、海況自動観測ブイならびに水温自動観測ブイの水温（下記URL、QRコード）を参考にしながら26℃を超す日は稚貝採取をしないでください。

なお、26℃以下の日に稚貝採取を行う場合には以下の点に気をつけてください。

(1) 稚貝を大切に扱いましょう。

○作業は早朝の涼しい時間帯に行い、タライや水槽の水温が上がらないように、シート等で直射日光を防ぎましょう。

○タライや水槽の水は出来るだけ深い水深帯から汲み上げ、かけ流しにしましょう。かけ流しにできない人は、タライの海水を頻繁に交換してください。かけ流しまたは海水の交換がないと水温上昇および酸欠で稚貝が死んだり、成長不良になることがあります。

○稚貝は乾燥にも弱いので、手早く作業を行いましょう。

(2) 適正保有数、適正収容数を守りましょう。

○稚貝採取では決められた保有数を守りましょう。

○パールネット1段当たりの収容数を適正にしましょう。

(3) 採取後の管理に気をつけましょう。

○採取後の稚貝が足糸でネットに付着しているかどうか見ながら作業を進めましょう。

○水深が浅いほど水温は高く、潮も速いので、採取後は施設を下層に沈めましょう。また、立ちきり（土俵）やオモリをつけて、施設やネットを安定させましょう。

○採取後も一部の採苗器を残しておきましょう。

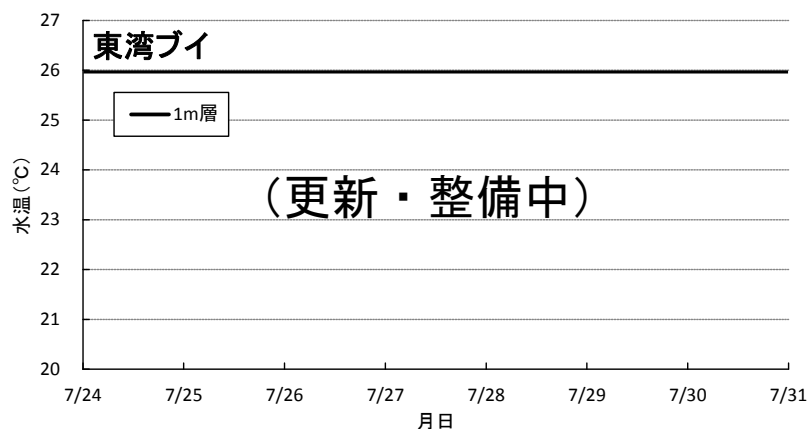
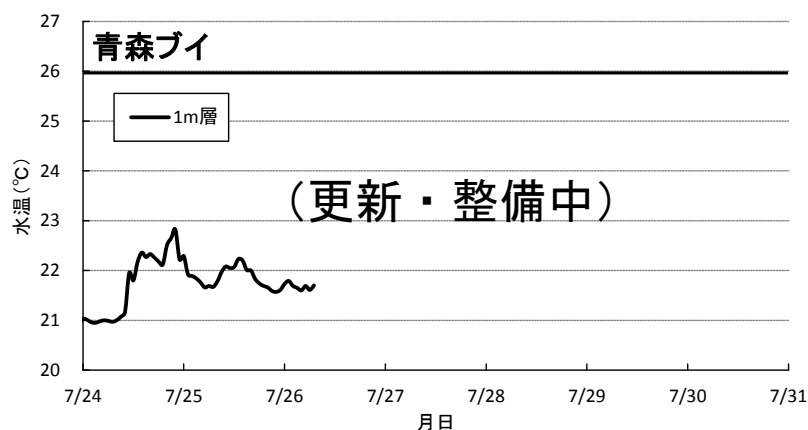
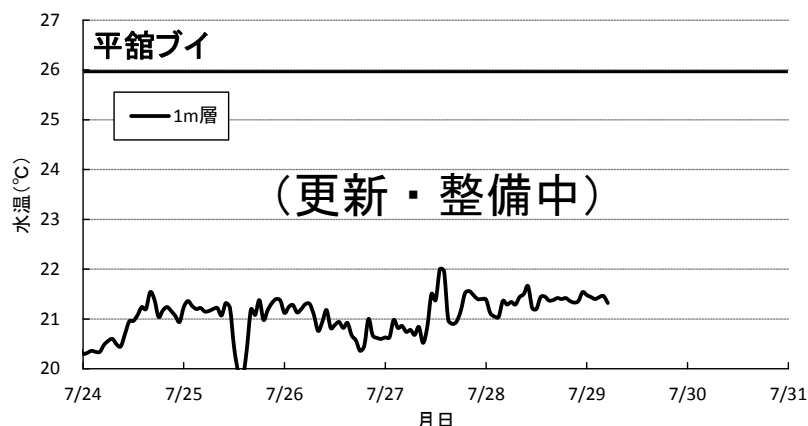


図1 海況自動観測ブイでの1m層の毎時水温の推移



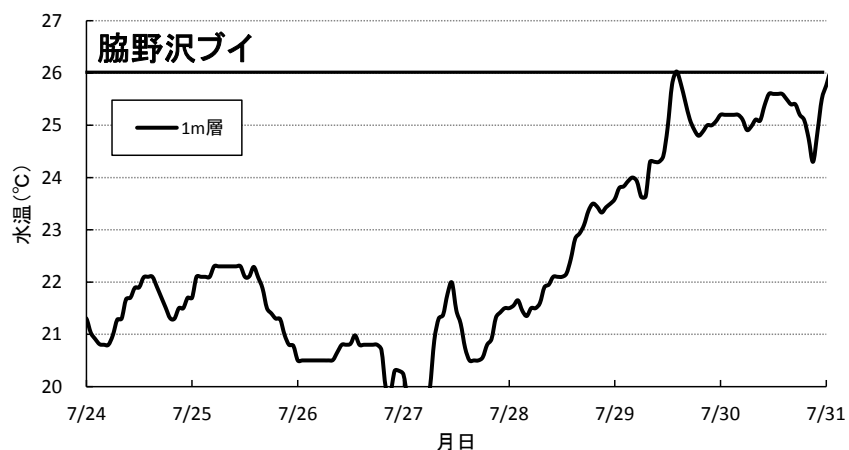
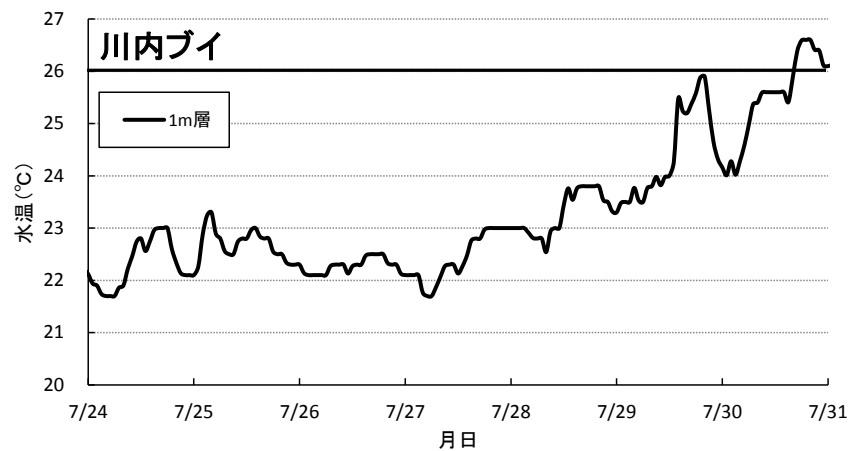
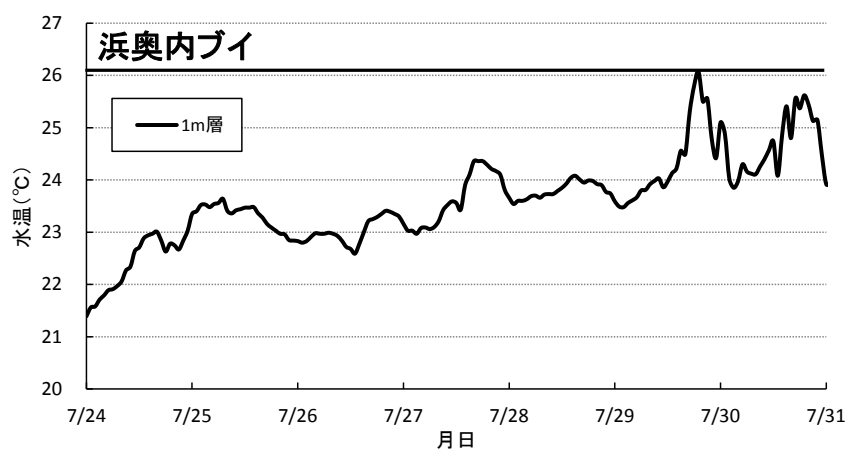
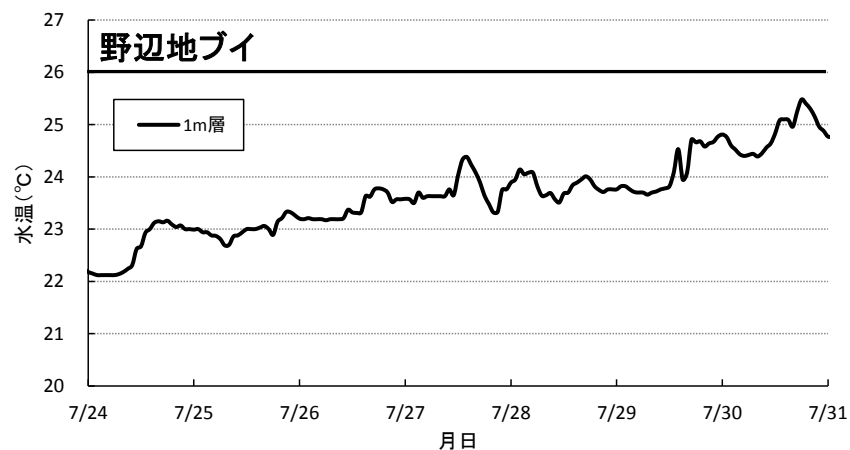
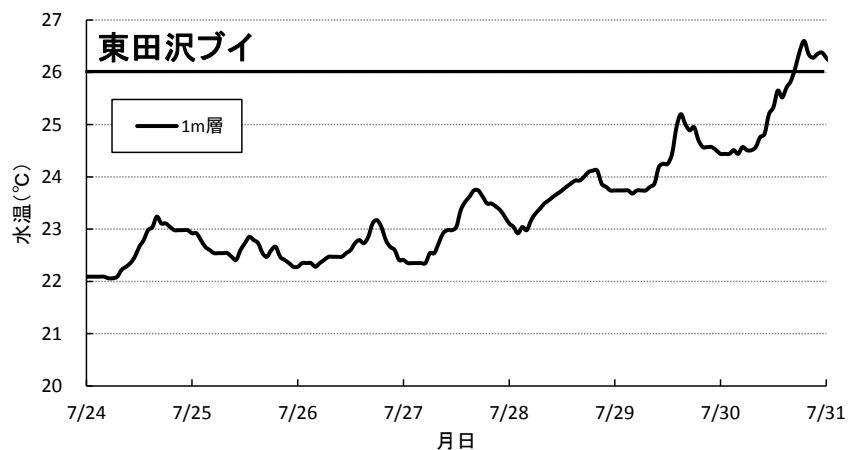
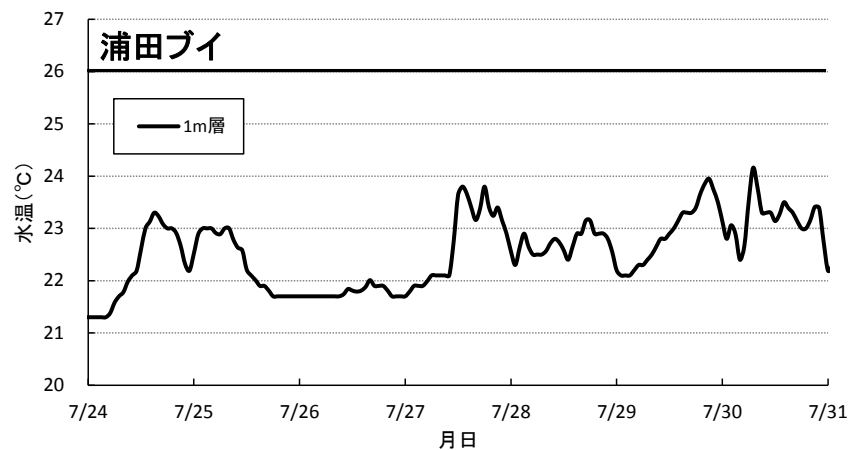
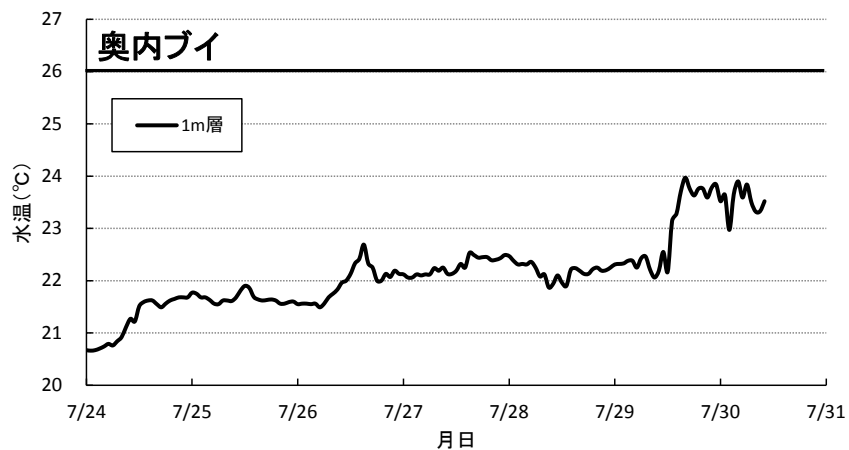


図2 水温観測ブイでの1m層の毎時水温の推移